

最近よく売れている日本酒

“ トゥゴブケヨ（熱燗で） ”

ソウル駐在員事務所

秘書 洪承元

先日、日本の友人から日本酒をお土産にもらいました。真冬の夜に熱燗で飲むといいですよ…。暖めて飲めるのが日本酒の味と粋ですが、最近では季節に関係なく需要がたいへん増加しています。

ある日本料理関係者によれば観光ビザが免除され、連休や週末を使って日本へ行く若者が増え、日本酒を飲んだ経験がある人が非常に増えたこと、韓国内で焼酎より低アルコールで健康的なイメージなどが重なり、日本酒の需要はより一層増えたといえます。つまり最近1～2年間の円安による日本への観光客の増加と共に、日本酒文化は自然と韓国内に定着しました。気軽に日本酒を楽しむ20～30代の若年層がこれを先導した模様です。

関税庁統計によれば今年1月から10月までの間に、日本から輸入された日本酒は約1,242トンで、昨年同時期と比較して30%以上増えました。金額ベースでは、417万5,000ドルと45%以上増加しました。日本酒の輸入が始まった1995年、韓国に入ってきた日本酒は64トンに過ぎませんでしたが、今や市場規模は25倍以上に拡大しました。

日本酒が大衆酒として定着してからまだ4年が経過したばかりで、それ以前の日本酒はあくまでもホテルや高級日本料理店などで味わうことができる高級酒でした。日本酒が大衆酒として脚光を浴びるようになったのは日本式居酒屋のフランチャイズが流行り始めたからであり、このような店では1万～3万ウォン前後の安い日本酒(720ml)がよく出ています。

しかし最近では業者間の競争が激しくなったうえ円高が続いており、輸入業者は苦戦を強いられています。2008年初めに100円 = 800ウォン台であった日本円は、12月には100円 = 1,600ウォンに迫りました。このために11月に入り輸入業者等は販売価格の引き上げを行っていますが、販売業者の反発もあり10%程度の引き上げに留まっています。

では今後の韓国における日本酒市場の展望は？

日本国内での生産コスト上昇に円高まで重なると、価格の引き上げは避けられない状況になるだろうと言われています。しかし業界では仮に価格が上がっても成長の勢いは続くと見えています。日本酒より先に大衆化したワインや輸入ビールの場合でも、まず若年層で消費が拡大し、大衆的な流行時期を経て、一旦沈滞化した時期もありました。こうした点が日本酒の流行の過程と非常に似ているからだそうです。

韓国での日本酒ブームはこれからでしょう。将来安くておいしい日本酒が飲める日を楽しみにしています。